

特集号

平成28年

10月1日発行

明大校友会西東京だより



♪ ♪ # 私の学生時代 ♪ ♪

『学生時代の思い出』

小山弘之（昭和42年 政治経済学部卒）

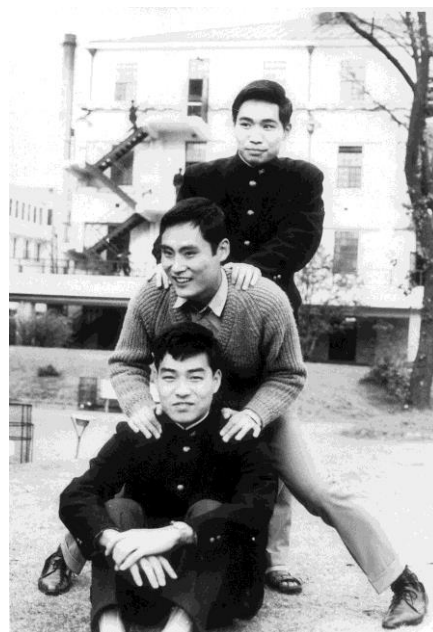
昭和38年春、一浪して政経学部（経済）に入学、当時も今の自宅から通学していました。特に心身を打ち込んだ趣味や部活動も無く、極めて平凡な学生生活でしたが、和泉の2年間、特に1年目は、思い出深く忘れ難いものでした。

受験の抑圧から開放され自由を満喫、緑豊かなキャンパス、良き友にも出会い、毎日のように、喫茶店や芝生に陣取り、四方山話から、講義の内容、ガールフレンド、自慢話等を飽きもせずダベリ、コンパも盛んでした。藤原弘達先生の講義も印象的でした。一見、時事放談の様でしたが、含蓄満載で諸学説を分かり易く説かれ、毎回楽しみでした。1年先輩の放送研究会の福留功男さんが、女子学生数人を引き連れて構内を闊歩、勧誘させていました。心が動きましたが、仲間に動機不純(?)を見破られ引き戻されました。

春のリーグ戦の対早、対慶戦では、応援席で声を嗄らしました。島岡御大、倉島主将、エースの石岡投手等の雄姿が今も目に浮かびます。当時は慶応と法政が強く、4年間優勝には無縁でした。和泉祭での六大学音楽祭、ビッグサウンドオーケストラの演奏に感嘆しました。

秋は、駿台祭の音楽祭を記念館で仲間達と鑑賞しました。デュークエイセス、アントニオ古賀さん、早大ナレオハワイヤンズ等皆さんが次々に登場、フィナーレはマンドリン倶楽部が飾りました。大御所、古賀政男先生が、満場の拍手の中、満面の笑みで登場されました。非常に楽しい、未だに忘れ難い音楽祭の一つであります。

この頃には、「明治に入って本当に良かった」の感慨が沸き上がりました。夏休みは、よくデパートで商品集配のアルバイトに精を出し、3年生の夏、TVでお馴染みのジャーナリスト大谷昭宏さんと、東京駅の大丸の地下集配場で短期間でしたが一緒に汗を流しました。当時、彼は早大新聞学科の1年生で、大人びたユーモアのある言動が印象的でした。懐かしい青春時代のひとコマです。



写真中央が私…

『私の学生時代』

鶴田 巖（昭和 42 年 商学部卒）



明治大学商学部に入学したのは、昭和三十八年四月。前年までは、都立高校の軟式野球部員としての学生生活。それも高校受験に失敗しての、親に内緒の野球部生活でありました。毎日、練習で遅く帰宅し、図書館での勉強だと言い逃れ、ユニホームは家人が寝た後密かに洗濯したものでした。中学時代の野球部活が受験失敗の原因だと、両親が入部を禁止した為です。

しかし親の意に反し、高校生活は野球漬けの三年間でした。野球以外の思い出は中々思い出せません。浪人受験も認めてもらえず、入学式では明大の校歌を歌う事となりました。両親も最後は入部を知っていたようですが、そのことには一言も触れず黙認でした。

入学と同時に、クラス仲間と野球チームを結成。東大を除く五大学の同好会クラブと連戦。良い戦績でしたが立大英字新聞部には遂に一勝もできず完敗。

実に残念でした。卒業時、担任の奥隅栄喜先生から牛歩会と名前を頂き、今も家族同様の交流をさせて頂いております。

省みれば、一、二年生の和泉時代は、青春のだ真ん中。春は神宮球場での応援。蛮声を張り上げ、喉はつぶれました。夏はバイトの資金で親友との九州一周貧乏旅行。秋は和泉祭。最終日のボンファイヤーでは、夜更けまで友と真剣に語り合ったものです。冬は卒業した高校の寮を利用して、一週間のスキー合宿。お陰様で麻雀の腕も上がりました。三、四年生の御茶ノ水時代は、就職等人生の将来を決する重要な時。しかし女子大等との合コンもあり、あの時、もしジューテムと言う伝説を理解していれば、人生も変わっていたかも知れません。不運にも、第二外国語はドイツ語でした。

ゼミは、労務管理論の醍醐作三先生。卒論はホームヘルパー論。五十年も前に、介護の問題を熱く議論したものです。牧歌的な和泉時代に比べて、都会的で少し知的な、そして甘酸っぱい思い出の御茶ノ水時代でありました。

『私の学生時代』

吉田寿雄（昭和 45 年 政治経済学部卒）

私は昭和 41 年、神宮では早・法・立大が強く、明大は島岡監督の下で高田 繁選手が

活躍していたものの春・秋共に4位であった年に入学しました。又、学生運動（全共闘）の活動が次第に目立ち始めた年でもありました。

和泉での1年生の春。体育実技（軟式野球）の授業で島岡吉郎先生が現れ感激した事が一番印象に残っています。確か、月1回の授業で年間数回の授業だったと思います。

しかし、体育劣等生の私には感激とは裏腹に苦痛な時間でもありました。野球は（神宮で）応援は好きだが自分でプレーするのは無理と分かっていたから…。すると、私と同じようなスポーツ苦手の数々が島岡先生に呼ばれ、「野球はチームプレーだ。試合に出る者ばかりが選手では無い。それを支えるメンバーも大切なチームプレーヤーだ！」と言った内容の話をされました。私は実技が全く駄目でもクラス仲間の為に野球道具を整備したり、グラウンドのゴミ拾いをしたりしていました。それでも何とか体育実技の単位は取れました。実は、この経験が社会に出て私を大きく支えて呉れたのではないかと考えています。会社では、会社トップを支える社長秘書・経理畑を42年間勤め、退職後は社会的弱者を支える障害者の支援を行っています。ですから、島岡先生、いや島岡御大は今でも私の心の恩人です。

駿河台での4年生の冬。早々と就職先を決め、最終学年は殆どアルバイトに精を出していました。駿河台は「カルチェラタン」として全学連と機動隊が衝突し、校舎はバリケードの山。それでも卒業間近の期末試験は、商学部校舎で窓の隙間から催涙スプレーガスが入り込み、鼻や口をハンカチで覆い涙を流しながらボールペンを走らせたのを覚えています。

今ではすっかり環境が綺麗になって、法学部校舎以外に昔日の校舎の面影はありませんが、私にとってはどんなに環境が変わろうとも「明治」が私の第二の故郷です。



（注）木村美栄子さんと小島義一郎さんの原稿は、都合により電子版から削除しました。

編集後記

爽やかな秋、初めての特集号です。「私の学生時代」について奮ってご投稿下さい。

発行：明治大学校友会 西東京市地域支部 事務局：西東京市谷戸町 3-1-11（水井様方）Tel. 042-421-2164